

教育相談コーディネーターを生かした 教育相談体制の構築に向けて

千葉県子どもと親のサポートセンター

教育相談部

研究指導主事 樋口 聡美

研究指導主事 足立 直也

指導主事 笠井 明子

1 主題設定の理由

令和元年度から2年度の先行研究では、本県における小・中（千葉市を除く）・公立高・特別支援学校の教育相談体制の調査、及び千葉県子どもと親のサポートセンターにおける教育相談コーディネーター養成研修受講修了者への追跡調査を行った。その調査結果から各学校における教育相談体制の現状と課題を考察し、教育相談コーディネーターの役割を明確にし、体制の構築に向けた道筋を示すものとなり得る有効なツールとして、「機能的な教育相談体制チェックリスト」（以下「教育相談体制チェックリスト」とする）を作成した。

本研究では、「教育相談体制チェックリスト」の見直しを行う。調査対象を千葉県子どもと親のサポートセンター主催の教育相談基礎研修、教育相談上級研修、教育相談コーディネーター養成研修の受講者とした。学校現場で活用した際の使用感や課題の調査を行い、ツールそのものをより使いやすいものにしていく。「教育相談体制を整えるために必要なこと」についても同対象者に調査を行い、その内容を分析することで新たな課題を明らかにし、課題解決につながる提案を行いたい。課題解決のための提案が教育相談体制構築をさらに推進し、学校現場における充実した教育相談ができる体制づくりにつながると考え、本主題を設定した。

2 研究目的

「教育相談体制チェックリスト」を学校現場でより活用しやすいものにする、調査の過程で生じた新たな課題に向けた提案を行うことを通して、教育相談体制の構築に向けた道筋を示す。

3 研究計画と方法

本研究は、令和3年度から令和4年度までの2か年計画とする。

令和3年度 (1年次)	令和2年度に作成した教育相談体制チェックリストの見直しを通して、新たな課題やより充実した教育相談に向けて提案できることを探る。 ・教育相談上級研修、教育相談コーディネーター養成研修受講者が「教育相談体制チェックリスト」にて自校の見立てを行い、その改善に関すること、教育相談について難しさを感じる事等についての質問紙調査実施。 ・研究協力校において「教育相談体制チェックリスト」にて自校の
----------------	---

	教育相談状況を改めて確認し、その改善に関すること、教育相談について難しさを感じる事等の聞き取り、質問紙調査実施。
令和4年度 (2年次)	1年次に浮上した課題への対応として「教育相談自己評価シート」を作成、検証する。 ・作成した「教育相談自己評価シート」を研究協力校において検証。 ・教育相談基礎研修、教育相談上級研修受講者に試用後、質問紙調査実施。

4 研究概要

(1) 教育相談体制チェックリスト

ア 令和3年度教育相談上級研修受講者、教育相談コーディネーター養成研修受講者（表1）への質問紙調査

(ア) 調査の方法

「教育相談体制チェックリスト」で自校の見立てを行った後に、質問紙に回答した。

受講生の在籍学校種	教育相談上級研修 (24名)	教育相談コーディネーター養成研修 (26名)
小学校	11名	8名
中学校	7名	3名
高等学校	5名	9名
特別支援学校	1名	2名
その他（指導主事）	0名	4名

表1 各研修受講生の在籍学校種別人数

(イ) 調査の結果（概要）

- 研修を企画したいと思うが、実状では難しく年に1回程度。若手教員は初任者研修やその後の研修等で学んでいるようだが、50代前後の教員がそれらの研修から抜け落ちてしまっているように感じる。
- 若手教員が増えている中、研修の必要性を感じているがなかなか実施できない。ケースも多種多様になり、自身の経験だけでは対応が困難。
- 個人が取り組むことができるチェックリストがあると力量向上につながると思った。（同意見複数）
- 個人チェックリストがあれば、教育相談コーディネーターとして（自校の教育相談体制が）機能しているかどうかを確認してみたい。
- 若手教員が多い中で、教育相談の力を限られた時間の中で高めていくことが課題。困り感をサポートできるチェックシートがあるとよい。
- 教員間の教育相談についての認識の違いがある。その点から、なかなかチームで体制を作っていくことが難しい。初任者や経験者研修で改めて教育相談を学ぶ機会があったり、定期的にワンポイントで学べる資料の配付ができたりするとよい。

イ 協力校における聞き取り調査と質問紙調査

研究協力校：中学校4校

(ア) 調査の方法

協力校を訪問し、管理職や教育相談担当者に、教育相談についての現状や課題について聞き取った後、「教育相談体制チェックリスト」で自校の見立てと質問紙調査を実施した。

(イ) 調査の結果（抜粋）

- コロナ禍で外部からの講師招聘の研修ができない状況にある。若い先生のために教育相談の研修の必要性を感じる。
- 現在学校が抱える大きな課題は「人間関係を構築することが苦手な生徒の増加」にある。そのため、教育相談の重要性は以前に比べ高まっていると思われる。学習上の悩み、友達関係、家庭問題など問題も多様化しており、外部機関との連携、スクールカウンセラーや養護教諭との連携も大切。そのような項目をチェックリストに盛り込むことも大切。若い先生が学校に多く在籍しているだけに、実技研修など教育相談に必要な知識や手法を学ぶ機会を持っていきたい。
- 教員が教育相談に対しての考えや実施の方法に考えの違いなどがあること。
- カウンセリングに必要なカウンセリングマインドを身につけるための研修や、相談時の配慮事項を学ぶ場などをつくることが後回しになってしまっていることがある。研修担当と相談し、計画を立てて、確実に研修を行っている体制づくりをしていきたい。

ウ 考察

研修受講生の質問紙調査の結果から、「教育相談体制チェックリスト」をより使いやすいものにしていくという視点で調査を進めた。その中で、受講生がそれぞれの立場や経験から「校内体制や組織について」「管理職の意識」「教育相談のイメージの共有」「研修の充実（若手からベテランまで網羅した内容）」「自身の振り返りや力量をあげるためのツール」などについての課題を抱えていることが明らかになった。

研究協力校からは、感染症対策をしながら教育活動を行うという、誰もが経験したことのない状況の中で、これまで以上に「教育相談の重要性」や「教育相談に関する研修の充実」を感じていることが明らかになった。

教育相談において、個人一人一人が抱えている課題と学校が組織として抱えている課題が明らかになったことから、この課題解決の一助となるツールの提供ができれば、教育相談の体制が整い、質の高い教育相談を各学校で提供できるのではないかと考えた。

(2) 教育相談自己評価シート（図1～図3）

ア 作成の目的

教育相談体制チェックリストの見直しを行う中で浮上した、「教員個人の教育活動の振り返りや教育相談の力量をあげること」（教員個人の課題）と、「教育相談に関する研修の充実」（組織の課題）の両面にアプローチできるツールが必要

であると考えた。働き方改革が推進される今日において、教員が多忙感を感じることなく、短時間での実施が可能であり、必要最低限の知識の確認ができるもの。加えて、教育相談コーディネーターや教育相談担当者、または管理職が、一人一人の状況を把握し、校内の教育相談体制構築に関するニーズが把握できるものであれば、研修の企画・運営にも役立てられると考え「教育相談自己評価シート」を作成した。内容については、千葉県子どもと親のサポートセンターが主催している教育相談基礎研修の受講対象者（おおよそ教員経験2年から10年程度）にあたる若年層の教員が、最低限身につけることが望ましい内容を掲載している。また、児童・生徒にとって一番身近である「担任」という立場にある教員への気づきの促しを目的としている。「担任」に焦点を当てた項目もいくつかあるが、全ての教員に知っておいてほしい、意識をもってほしい内容をまとめた20項目である。

イ 教育相談自己評価シート～チェックシート～について（一部抜粋）（図1）

【教育相談自己評価シート～チェックシート～】						
					氏名	
※各項目の評価を、5点、3点、1点、0点で記入してください。 (そのとおりである) … 5点 (概ねそのとおりである) … 3点 (あまりそうではない) … 1点 (そうではない) … 0点						
	NO.	教育相談のポイント	月 実施	月 実施	月 実施	
個を支える基本的視点	1	教育相談は特定の人間、特定の場所、決められた時間で行われるわけではないことを知っていますか。				
	2	「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という生徒指導の3つの機能を生かした授業づくりをしていますか。				
	3	学級、学年で人間関係づくり(グループエンカウンターなど)に関する授業実践をしていますか。				
	4	児童生徒の変化に気づく視点をもって指導していますか。				
	5	登校時、授業開始時に担任及び授業担当学級全員の様子を確認していますか。				
	6	コミュニケーションの平等性に配慮していますか。				
	7	自身が関わる児童生徒の基本情報や家庭環境を把握していますか。(学年、学級、授業、部活など)				
	8	保護者宛て連絡の必要性を意識していますか。				
	9	生徒指導上の諸問題を抱え込まずに学年主任、養護教諭、SC、管理職などへの連絡、報告を行っていますか。				
	10	切れ目のない支援の提供に向けて、児童生徒の記録を残していますか。				
	11	希死念慮を抱く児童生徒への指導上の留意点を理解していますか。				
	12	いじめ問題に関し、自身で防止対策を考えていますか。				
個に応じた支援	13	合理的配慮の意義を理解していますか。				
	14	各発達障害(ASD、ADHD、LD)の基本的特性を理解したうえで適切な支援に努めていますか。				
相談時の配慮事項	15	児童生徒と個別で面接を行う際の配慮すべき点を知っていますか。				
	16	教育相談室の利用方法を理解していますか。				
	17	SC、SSWの出勤曜日とその役割を知っていますか。				
外部連携	18	児童生徒各自が悩みを相談できる外部機関とその相談方法を知っていますか。				
	19	保護者を対象とした居住地域及び県の教育相談機関を知っていますか。				
教師自身の健康管理	20	自身の相談先(メンタルヘルス)や相談方法を知っていますか。				

図1 教育相談自己評価シート～チェックシート～

【教育相談自己評価シート～チェックシート～の特徴】

- ・全20個の質問に、「そのとおりである5点、概ねそのとおりである3点、あまりそうではない1点、そうではない0点」で回答し、点数を出す。
- ・記載や見直しが年度内に複数回行えるようなチェック欄にした。
- ・学校の実状に応じて、2通りの使用方法を想定した。
 - ①データ入力での回答、確認。
 - ②チェックシートとアドバイスシートを両面で印刷し、週案などいつも目にするものと一緒に保管し、繰り返しの確認をするもの。

ウ 教育相談自己評価シート～アドバイスシート～について（一部抜粋）（図2）

ワンポイントのアドバイスが必要なものについて、1つのシートにまとめている。このシートで全てがわかるというものではなく、自己研鑽の入り口となるものとして作成した。内容は、教育相談体制チェックリストのアドバイスシートや千葉県教育委員会、文部科学省、厚生労働省のホームページやリーフレットなどから抜粋や引用をしている。

【教育相談自己評価シート～アドバイスシート～】																			
個を支える基本的視点	<p>3 【人間関係づくりに関する授業実践】</p> <p>グループエンカウンター→「エンカウンター」とは「出会い」という意味。グループ体験を通して他者に出会い、自分に出会う。人間関係作りや相互理解、協力して問題解決する力などが育成される。集団の持つプラスの力を最大限に引き出す方法。</p> <p>ピアサポート→「ピア」とは仲間という意味。児童生徒の社会的スキルを段階的に育て、児童同士が互いに支え合うプログラム。</p> <p>ソーシャルスキルトレーニング →様々な社会的技能をトレーニングにより育てる方法。</p>																		
	<p>4 【児童生徒への気づきの視点】</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/>体調の変化</td> <td><input type="checkbox"/>生活リズムの変化（睡眠、食事等）</td> <td><input type="checkbox"/>服装の変化</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>言動や表情（感情の起伏）</td> <td><input type="checkbox"/>仲間関係（対人関係）</td> <td><input type="checkbox"/>授業態度、姿勢</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>学力（成績の低下）</td> <td><input type="checkbox"/>休み時間の過ごし方</td> <td><input type="checkbox"/>保健室の利用状況</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>家に帰りがたがる、帰りがたがらない</td> <td><input type="checkbox"/>持ち物（忘れ物、紛失）</td> <td><input type="checkbox"/>注意散漫（集中力のなさ）</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>遅刻、早退、欠席</td> <td><input type="checkbox"/>人との距離感（依存、離脱傾向等）</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>虐待の兆候（傷、あざ、服装、におい、食事、態度の変化 等）</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> 体調の変化	<input type="checkbox"/> 生活リズムの変化（睡眠、食事等）	<input type="checkbox"/> 服装の変化	<input type="checkbox"/> 言動や表情（感情の起伏）	<input type="checkbox"/> 仲間関係（対人関係）	<input type="checkbox"/> 授業態度、姿勢	<input type="checkbox"/> 学力（成績の低下）	<input type="checkbox"/> 休み時間の過ごし方	<input type="checkbox"/> 保健室の利用状況	<input type="checkbox"/> 家に帰りがたがる、帰りがたがらない	<input type="checkbox"/> 持ち物（忘れ物、紛失）	<input type="checkbox"/> 注意散漫（集中力のなさ）	<input type="checkbox"/> 遅刻、早退、欠席	<input type="checkbox"/> 人との距離感（依存、離脱傾向等）		<input type="checkbox"/> 虐待の兆候（傷、あざ、服装、におい、食事、態度の変化 等）		
	<input type="checkbox"/> 体調の変化	<input type="checkbox"/> 生活リズムの変化（睡眠、食事等）	<input type="checkbox"/> 服装の変化																
	<input type="checkbox"/> 言動や表情（感情の起伏）	<input type="checkbox"/> 仲間関係（対人関係）	<input type="checkbox"/> 授業態度、姿勢																
<input type="checkbox"/> 学力（成績の低下）	<input type="checkbox"/> 休み時間の過ごし方	<input type="checkbox"/> 保健室の利用状況																	
<input type="checkbox"/> 家に帰りがたがる、帰りがたがらない	<input type="checkbox"/> 持ち物（忘れ物、紛失）	<input type="checkbox"/> 注意散漫（集中力のなさ）																	
<input type="checkbox"/> 遅刻、早退、欠席	<input type="checkbox"/> 人との距離感（依存、離脱傾向等）																		
<input type="checkbox"/> 虐待の兆候（傷、あざ、服装、におい、食事、態度の変化 等）																			
<p>11 【希死念慮、自死の可能性を感じたら・・・】</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 10px; text-align: center;"> <p style="color: white; font-weight: bold;">TALK の原則</p> </div> <div> <p>(1) Tell : 言葉に出して心配していることを伝える</p> <p>(2) Ask : 「死にたい」という気持ちについて、率直に尋ねる</p> <p>(3) Listen : 絶望的な気持ちを傾聴する</p> <p>(4) keep safe : 安全を確保する</p> </div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-left: 10px; font-size: small;"> <p>* 医療連携（養護教諭、学校医）を図る、地域機関病院の確認をすることも必要</p> </div> </div>																			
<p>12 【いじめ防止のために】</p> <p><input type="checkbox"/>表面チェックリストの1から10項目を日々の指導の中で意識</p> <p><input type="checkbox"/>所属校のいじめ防止対策を確認</p>																			
個に応じた支援	<p>【各発達障害の特性について】</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px; width: 45%;"> <p>言葉の発達の遅れ/コミュニケーションの障害 /対人関係・社会性の障害 パターン化した行動、こだわり</p> </div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px; width: 45%;"> <p>基本的に言葉の発達の遅れはない/コミュニケーションの障害 対人関係・社会性の障害/パターン化した行動、興味・関心のかたより/不器用（言語発達に比べて）</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">自閉症</p> <p style="text-align: center;">広汎性発達障害（ASD）</p> <p style="text-align: center;">アスペルガー症候群</p> </div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">知的な遅れを伴うことがある</p> </div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">注意欠如多動性障害（AD/HD）</p> <p style="text-align: center;">不注意、多動・多弁、衝動的に行動する</p> </div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">学習障害（LD）</p> <p style="text-align: center;">「読む」「書く」「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手</p> </div> </div>																		

図2 教育相談自己評価シート～アドバイスシート～

エ 教育相談自己評価シート～集計シート～について（一部抜粋）（図3）

教育相談自己評価シート【集計シート】												
【集計例】		いなげ市立子サポ学校										
NO.	教育相談のポイント	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
1	教育相談は特定の人、特定の場所、決められた時間で行われるわけではないことを知っていますか。	3	3	5	5	5	3	5	5	5	5	4.4
2	「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という生徒指導の3つの機能を生かした授業づくりをしていますか。	3	3	3	3	3	3	3	5	3	5	3.4
3	学級、学年で人間関係づくり(グループエンカウンターなど)に関する授業実践をしていますか。	3	3	3	3	3	3	3	0	3	0	2.4
4	児童生徒の変化に気づく視点をもって指導していますか。	3	3	5	3	3	3	3	5	3	5	3.6
5	登校時、授業開始時に担任及び授業担当学級全員の様子を確認していますか。	5	5	5	5	3	3	5	5	3	5	4.4
6	コミュニケーションの平等性に配慮していますか。	3	3	3	5	3	3	3	5	3	3	3.4
7	自身が関わる児童生徒の基本情報や家庭環境を把握していますか。(学年、学級、授業、部活など)	3	3	3	3	5	3	3	3	3	1	3
8	保護者宛て連絡の必要性を意識していますか。	5	5	5	5	5	3	5	3	3	5	4.4
9	生徒指導上の諸問題を抱え込まずに学年主任、養護教諭、SC、管理職などへの連絡、報告を行っていますか。	5	5	3	3	5	3	3	5	5	5	4.2
10	切れ目のない支援の提供に向けて、児童生徒の記録を残していますか。	3	3	3	3	3	3	5	5	3	3	3.4
11	希死念慮を抱く児童生徒への指導上の留意点を理解していますか。	1	3	3	1	1	3	3	3	3	3	2.4
12	いじめ問題に関し、自身で防止対策を考えていますか。	3	3	3	3	3	3	3	5	3	3	3.2
13	合理的配慮の意義を理解していますか。	3	3	5	5	5	3	5	5	3	3	4
14	各発達障害(ASD、ADHD、LD)の基本的特性を理解したうえで適切な支援に努めていますか。	1	3	5	5	5	3	5	5	1	1	3.4
15	児童生徒と個別で面接を行う際の配慮すべき点を知っていますか。	3	3	3	5	3	3	3	5	3	3	3.4
16	教育相談室の利用方法を理解していますか。	1	3	3	3	3	3	3	5	3	1	2.8
17	SC、SSWの出勤曜日とその役割を知っていますか。	3	1	1	3	3	3	3	3	5	3	2.8
18	児童生徒各自が悩みを相談できる外部機関とその相談方法を知っていますか。	3	1	3	3	5	1	3	5	3	3	3
19	保護者を対象とした居住地域及び県の教育相談機関を知っていますか。	3	1	3	1	3	1	3	5	3	5	2.8
20	自身の相談先(メンタルヘルス)や相談方法を知っていますか。	1	3	3	3	3	1	3	5	5	3	3
合計		58	60	70	70	72	54	72	87	66	65	

図3 教育相談自己評価シート～集計シート～

【教育相談自己評価シート～集計シート～の特徴】

- ・個人ごとに入力することで、点数の低い箇所は色の変化（白→ピンク）するようになっているため、どこに苦手感があるかがわかる。
- ・校内教員分を全て入力すると、1項目ごとの平均値が出る。平均が3に満たない箇所は色の変化（白→黄）するようになっているため、入力結果を今後の校内研修等の企画・運営に役立てられる。

オ 令和4年度教育相談基礎研修、教育相談上級研修受講者（表2）への質問紙調査

(ア) 調査の方法

「教育相談自己評価シート」の作成目的、使用方法を説明後、自己評価シートで自身の現状の把握を行い、質問紙に回答する。教育相談上級研修

受講者に関しては、研修の一貫として、教育相談体制チェックリストで自校の見立て後に、教育相談自己評価シートで自身の現状把握を行う。

受講生の在籍学校種	教育相談基礎研修 (38名)	教育相談上級研修 (26名)
小学校	16名	10名
中学校	4名	1名
高等学校	6名	9名
特別支援学校	12名	6名

表2 各研修受講生の在籍学校種別人数

(イ) 調査の結果 (概要)

- コーディネーターが職員の意識に目を向ける機会ができることは、向上を図るきっかけとなりありがたい。
- 1回分だけでなく3回分記入できることで、変容がわかるところや職員分の集計ができるところが便利だと感じた。
- アドバイスシートの内容を見ながら自分自身の取り組みを振り返ることができる。また、アドバイスシートは各学校の様子に合わせてブラッシュアップできそうだった。
- 個を支える基本的視点に関しては、該当する番号も書かれており、照合や活用がしやすかった。他も、もう少し分類しながらだとなお良い。
- 合理的配慮について曖昧な理解の教員も多い。アドバイスシートの記載がほしい。
- コンパクトなのでよいと思う人とピンとこない人がいると思った。
- 教育相談は一人一人の意識や考え方により重要度が違ってくる。皆が同じ方向を向いて、チームで行うことの難しさはどう働きかけるとよいのか。
- 現状の教育実践と関連性が浅いもの（集団指導やいじめ対応）については評価も低くなったが、その部分の研修を求めているとも限らないため数値だけの判断ではニーズのずれも生じるのではないか。

カ 協力校における聞き取り調査と質問紙調査

(ア) 調査の方法

研究協力校：小学校3校 中学校3校 高等学校2校

協力校を訪問し、教育相談自己評価シート作成の目的、活用方法を教育相談コーディネーターまたは教育相談担当者、管理職に伝達した。その後、校内で教員に試用し、質問紙調査を実施した。

注釈) 特別支援学校については、令和元年度の調査で、教育相談体制が「良く機能している」「おおむね機能している」との回答が10割に近い数値であったため、今回の調査に関しては、小学校、中学校、高等学校のみとした。

(イ) 調査の結果 (概要)

- 点数化したことで、教員自身や学校自体の弱点を明確に示すことができ

いたため、気がつきやすく、わかっていたつもりになっていたことを客観的に分析することができた。

- 知らない事柄については知ることができる。また、漠然と考えていた事柄を整理し、自分自身に足りない部分を認識することができる。その上で新たに学んだり、気づいたりするきっかけになる。
- 本校の現状として、生徒指導より学習指導に重きを置き始めている。このことから、若年層教員の生徒指導力の育成の場が減っている。教育相談は不登校支援であるという考え方が広まっていると感じる。
- チェックシートの評価が低い項目について、情報提供や研修を企画することができる。
- 集計シートの回答が1・0・無回答でセルが赤くなり、平均が低いものが黄色くなり、一目瞭然でよい。人や学校全体の実態を理解し研修等に生かすことができる。
- チェックシート記入後、集計シートで集計することで1人1人の教員の困り感に気づくことができるようになる。

キ 考察

「教育相談自己評価シート」に関する調査では、研修受講者、研究協力校から作成時の目的に合致した回答を得ることができた。一方で、千葉県子どもと親のサポートセンター主催の研修受講者からは、内容や項目、特にアドバイスシートの充実を求める意見があった。教育相談自己評価シートを入口として、個人の研鑽を進めるだけでなく、組織として必要な研修を企画したり、情報を提供したりすることが、一番の目的であることについては、さらなる周知が必要である。

研究協力校に関しては、自己評価シートを集計したものを、研修の企画・運営に生かすことを念頭に置いた回答が多く寄せられた。「教員のニーズを掴む一助となり得る」、「今後も活用したい」という意見もあったことから、学校で活用できるツールになり得ると考える。

5 研究のまとめ

「教育相談体制チェックリスト」の見直しを通して、個人が抱える課題、組織が抱える課題が明らかになったことから、「教育相談自己評価シート」を作成した。どちらのツールも、比較的短時間で活用できるものであることは、活用する際の負担感が少なく、教員の教育相談に関する知識や実施状況の把握が自身でできるものであり、その結果を集計することで学校全体の教育相談の状況確認の一助ともなる。

一方で、その活用の際には、導き出された結果や評価を客観的に捉え、自校の現状を見つめ、課題を改めて捉え直すことが重要である。その担い手となる「教育相談コーディネーター」の育成も、引き続き千葉県子どもと親のサポートセンターが果たしていかなければならない。

今後は、「教育相談自己評価シート」の項目、内容、各シートの見直しを行いながら、「教育相談体制チェックリスト」と合わせて、県内に広く周知していきたい。適切に活用されることで、各校の教育相談体制を整えるための一助となると考える。